ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

日本リーグ唯一の公式試合球

国際ハンドボール連盟公認球

日本ハンドボール協会検定球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●３号球●32枚パネル

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●２号球●32枚パネル

molten®

株式会社 モルテン
東京本社　〒130-0003東京都墨田区横川5丁目5-7
大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

機関誌400号発刊を記念して

（財）日本ハンドボール協会機関誌は、昭和35年6月5日に第1号を発行以来、平成11年9月号をもって、400号を迎えるに至りました。これも先人諸氏のご努力の賜であり、編集に携わった方々のご努力と情熱に敬意を表します。第1号の編集後記には、編集会議を開いて、たった3日後に原稿締切という超スピードの中で発刊されたことが記されており、当時の熱意が伝わってくる想いが致します。

機関誌の略歴をたどれば、昭和35年に発刊以来、当初は季刊誌として年4回の発行でありましたが、昭和40年より年11回の発行になっております。昭和40年6月には、第3種郵便物として認可され、配布に可能性を広げております。

第100号は、昭和47年8月に迎え、36年ぶりにハンドボールがオリンピックに復活したミュンヘンオリンピック代表の表紙でありました。以後、昭和56年9月に200号、平成2年8月に300号という歩みを経てきました。

今号では、歴代の主立った機関誌編集長にご登場いただき、編集のご苦労や、今後の提言などを語っていただきました。

機関誌編集委員会では、今後ますますのハンドボール界に貢献するべく機関誌を充実させるとのコンセプトで、読者の皆様のご意見も取り入れながら、より良き紙面作りをしていきたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

事業の活気が機関誌の充実に

杉山　茂

スポーツ団体の機関誌・会報の類いは、どこも生まれては消え、消えては生まれなおす経過をたどっている。

専従のスタッフを抱えられる団体でなければ、難しい事業なのだ。そうしたシステムをとらず、約40年間、休刊もなく「400冊」を積み上げた歴代編集委員に、まず敬意を表したい。

「400号」になった機関誌には前身がある。

1952年から54年までに8回出された『日本ハンドボール協会会報』である。新聞スタイルで、私が高校生のころだった。

その『会報』が54年10月で途切れた。毎号のように「原稿不足」が訴えられ、「寄稿」が呼びかけられていたので、この休止も、当然のなりゆきと思えた。

1959年、私はマスコミの世界に入り、日本協会の式場隆三郎会長（当時。故人）などとの会合の席で、会報の復活を提案した。その場の勢いで、原稿・集稿の役は私がつとめてもいい、と言ってしまった。

翌年、日本スポーツ新聞社（宮沢宏之社長）の支援もあって『ハンドボール』は、再スタートともいうべき創刊にこぎつけ、そのあと日本協会内事業として受け継がれ、ここまでの歴史をつなげていただいたわけである。「400冊」のきっかけに関与できたのは、私のハンドボールとのさまざまなつきあいのなかでも、強い印象として残っている。

さて、大きなことを言ったものの道のりは険しかった。当初は年間4回の発行だからよかったが、現行のように年11回などと張り切っていたら、すぐに息切れしただろう。ゆっくりと、発行間隔をせばめていくというアイデアは、どなたのものだったのか。その慎重さと分析が「400冊」へと育った大きな要因といえる。

思い出は多い、多すぎる。初期のころ編集長の藤本強氏（東大OB）と私は、月に一回、印刷会社の校正室でおちあい、校正のかたわらで、次号以降を語りあった。

このささやかな「編集委員会」は10年近く続いたが、互いに仕事を終えてからの集合で、そこからの作業のため、「委員会」の終わりは、いつも夜11時を廻ったものだ。

2人とも、自宅でよく原稿も書いた。短期集中で、徹夜に近い仕上げとなったが、発行日を守ることが、全国の支持を得る最大条件と考えれば、やむをえなかった。懐かしい。

もちろん、藤本氏や私は“世話役”にすぎず、「400冊」は、全国の関係者、愛好者、ファンの情熱の結晶である。

忙しい時間を割いて、各地の記録を送ってくださった地方協会広報担当者からの寄稿は、それだけで、勢力情報、実力資料になった。月に5本程度だったが投稿があったのも嬉しかった。ある時、その採用の基準が話題にされた。私は、いわゆるOB、OG、愛好者の父兄と思われる人たちの一文を最優先させてきた。地方を含めた内部関係者のものは、遠ざけたのである。彼らは公式の発言の場を持っていたからだ。

何人かはこう言った。「諸会議は、モノを言える雰囲気が少ない。機関誌までその扉を閉じるのか」と。

日本ハンドボール界も、こんな寂しい時代を通り過ぎてきたのである。

“プロ”の方たちの協力も「400冊」を支えてくれた。

なかでも渡邉邦雄（朝日）、改田智洋（朝日、故人）、大国拓哉（読売）、小川励行（デイリースポーツ、立教大OB）、鷲尾武治（共同）、小山敏昭（共同）の各氏には、お世話になりつづけた。2日後が原稿〆切りなどという乱暴なお願いを受けていただきもした。

各氏の健筆と速度が、スポーツ団体の機関誌としては異例ともいえる内容の鮮度となり支持に拡ったのは間違いない。

私は80年代後半から縁が薄れたが、401冊目からへの注文も少なくない。日本協会の進む方向、針路、施策が、この1冊で全国にわかるような内容が主軸をなすべきだ。

熊本世界選手権の前でさえ、強いアピールと開催の歓びを打ち出し切れず、最近では「10万人会」に関する説得力が不充分だし、看板事業「ジャパンカップ99」(兼ヒロシマ国際)については、ほとんど情報がもたらされずに過ぎた。

機関誌の次の100号・10年間は、おそらく日本のスポーツ界の様相そのものが大きく変化するだろう。

「ハンドボール」を含めスポーツ団体の刊行物は「出せばよい時代」がとうに終わっている。

激動のその時々に、関係者、愛好者が何をなすべきか、それを伝える体制の情報発信源として、いっそうの拡充が望まれる。通信ネットワークによる速報展開で、いっさいがこと足りることになっては、刊行自体の意義が問われよう。「ハンドボール」も回顧、報告、研究などと並んで、日本協会の「明日から」の動向を克明に伝える姿勢が、これまで以上に必要となるハズだ。

言うまでもないが、日本協会の積極的・意欲的な事業があって、機関誌ははじめて活きる。「400冊」はみごとな実績だが、機関誌事業が目立つようでは、実は情けないのだ。

素晴らしい事業とその成果が、素晴らしい機関誌を創り出す。500号への道のりは、それだけにいっそうの期待と興味を抱かすことになる－。

機関誌の重要性

川上整司

日本体協の多くの加盟団体から刊行されていた機関誌の中でも、ハンドボールは刊行当初から長期間上位にランクされていたそうな。

古い創刊時の色褪せたページをめくると内容充実もさることながら、世界をかける大いなる夢が随所に見られる。一方では地方の話題を網羅するなど広範囲、高次元で発展を模索していたように思う。時の経過を忘れる程懐かしく、感心させられながら読み耽ってしまう。

監督の言葉で選手が奮い立つように、時には活字もまた同じ意味を持つ。それによって読者の興味が一層高められるのなら、これに勝る普及はないのではなかろうか。

私が広報を担当したのは、昭和58年4月からで、その当時の理事は年配者が多く、全国的に名のある方々が強化、普及、審判と実践型で、その部門を中心に力を注いでいたため編集を希望する人はほとんどなかった。私もチーム作りを主に生きてきた実技型だが、それについては些の興味を持ってはいたが、定期的に刊行物を出すなど、とっても考えられなかった。これについては前任者も同様で、協会として深刻な問題であったように、我々にも、その大きな遅れを取り戻すために、成す術はなかった。

ちょうどその頃、ベースボール・マガジンの部長だった鴨門君に持ちかけたところ、快く承諾してくれて、お願いすることになった。

それ以後も原稿集めには苦労したが、何とか予定通りに発行することができた。

順調に進められていた当時と比較すると内容的には劣る部分が多かったが素人だけでの一時期より基本的な誤字、脱字等は減少され全般的には充実した。

創刊号より大活躍だったプロの記者や杉山、藤本両氏のように、自ら足を運んで記事を書き、短時間で編集をまとめる能力にはとても追いつく訳にはいかなかった。

広報活動の傍ら、まがりなりにも続けた刊行だったが、鴨門氏のお陰で何とか続けられた。その時期、ロス、ソウル五輪の全日本と同行し記事を残したのも今では懐かしい思い出である。

機関誌の重要性は、その時代に繁栄し、競技力を伝承し、正確に記録を残しておくことだと思うが、ある時は読者を感動させ、それによってやる気を起こさせるなどの興味をひく記事も掲載する必要があるのではないかと思う。

その点からすると前半の誌の記事は、日本体協から賞賛されたように、ものの見事にその役割を果たしていたように思う。その時代、その人達ということで片づけては困る。世はどのように変わろうとも、人の情熱に変わりはない筈だ。

したがって内容については、読者が期待する話題は何かを検討する必要があるのではないか。原稿がなく、仕方なく埋めようやく刊行していたある時期もあったが、皆夢をみていた華やかだった時代の記事を、今後の検討材料の一つにしてはどうだろうか。そして魅力ある記事を掲載して読者に何らかのモチベーションを与えて欲しい。

それに対して重要なのは、機関誌の活用である。内容の質を高めても、競技者が良き読者にならなければ何の意味もない。

私は、いまだに興味があって、中学、高校、大学の現役プレーヤーに、この件の質問をよくするが、知っている、良く読んでいると答える選手に会ったことがない。そういえば先生の机の上にあったのを見たことがある。と、そんな答えである。いずれも高校生はインターハイ出場校の選手達である。

どんなハンドに関する記事でも、雑誌、技術書でも選手に読ませることが大切で、それによって新しい知識を得て、さらに興味を深めるであろう。自ら思考を凝らす習慣をつけさせることが、監督の日頃の指導をより広く、そして高度化につなげることにもなるのではなかろうか。

街の書店には、スポーツの雑誌や単行本は多く、サッカー、バレー、バスケ、ラグビー等、ライバルの球技の書は多岐に及んでいる。残念ながら、我らがハンドの書は皆無に等しい。

これらを見ても、普及の遅れは明らかでハンドをやろうとする機会はそこでも非常に少ないということになろう。

学校の先生の実技指導だけが、普及につながるものではなく、ハンドボール界の動きを選手が自ら進んで察知できるための環境作りを考えてやることも指導の一環ではないだろうか。普及発展は、大人達の考え方一つであることは、紛れもない事実である。

そういう意味からも機関誌は、各チームに2冊同封し、1冊は教師用、もう1冊は選手用として送ることができたら良いのだが、将来は是非そうして欲しい。

メジャー意識はまず指導者からで、実技指導をする中でしっかりと理念を植えつけるべきで、そうすることによって、いつの日か多くのハンド愛好者からマイナー意識は消えるであろうし、他の種目の人達からも自然淘汰されハンドボールと胸を張って言える日が来るであろう。私自身、ハンドボールを始めてこのかたマイナーと思ったことは一度もないが、環境がそうさせてくれないのが残念である。

それらを担うのは日本協会だが、昨今の動きを見るに、充実への一途をたどる組織的な運営は素晴らしく、大きな期待をしている一人である。その中で機関誌も村松氏を中心に円滑な委員会の動きで、誌の装丁も鮮やかに充実している。

400号を祝い、さらなる隆盛を期待してやまない。

400号発刊に寄せる

木野　実

この度機関誌発刊400号記念を迎え心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

1号から400号まで長年多くの方々のご努力でこうして発刊されていますことに対し大変うれしく思います。そして年々充実する紙面の作成に当たられている村松編集責任者はじめ編集委員のご奮闘に敬意を表します。

私もこの4、5年前より機関誌編集担当として編集委員の方々並びに全国の方々の心強いバックアップで何とか編集をつづけることができましたことをあらためて感謝申上げます。

とにかく機関誌（印刷物）は決められた日に発刊し定期的に読者にお届けするのがあたり前と言うことで月初めから一週間以内を目標に印刷会社の人と綿密に打ち合わせし推進して来ましたが編集内容、記事内容、原稿のチェックをはじめ短時間で仕上げなければならず素人の人間としては大変苦労の連続でありました。

特にお願いしていた原稿が締め切りまでに届かずその枠をどう埋めるか頭痛の種でしたし、サイズも担当してから時流に合わせて大きさをB5からA4サイズに変更。表紙もカラー写真を採用一新しましたので経費の捻出も大変でした。

機関誌はどうしても週刊誌と違って後追いの記事になることが多いので、できる限りタイムリーな記事内容を心掛けて編集するということで、試合の結果は大変重要ですが、余りスペースを割くことをさけ大会前の見所、展望を載せたりして来ました。また全日本チームは我々の代表チームということで全日本男女、ジュニア男女の動向を多く紙面をつかって伝えてきました。

男子熊本世界大会が間近に迫ってからは海外、IHF情報、アジア情報の記事も今迄以上に載せました。これらは大会の盛り上げにも大いに寄与してきましたものと思います。

またハンドボールの指導論、技術論の連載をおこない好評でありました。

ハンドボール界だけでなくむしろ外部の方から見てハンドボールをどう見ておられるのか率直に辛口批評をスポーツジャーナリストの方（特に早川文司様には現在も執筆していただいています）にハンドボール発展の為身近な問題等ご提言、ご教授願い、大変参考にさせて頂き、お陰様で大小多くのことに改善に役立だたせて頂きました。

そして何よりも機関誌の使命は4500チームに日本協会の指針、動向を正確にしかもタイムリーにわかりやすく読者にお伝えすることが最も大切なことなので各種会議の内容等もページのはじめに掲載し日本協会の理解を少しでも深めて頂ければと考えていました。更に地方協会だよりのコーナーをつくり地方協会の取り組みを伝えることによる各協会の活性化につながればという思いが強くありました。

他の競技団体を見ましても機関誌の発行が年2～4回が多く、毎月定期的に発行している競技団体はごく僅かのようでハンドボール協会はJOC、体協からも評価を得ているところです。

今後も機関誌はこうした使命を担っているわけで一層タイムリーでしかも正確に協会の動向を伝えていってもらいたいと思います。そして47都道府県の協会とのパイプづくりにも役立てて頂きたいと期待するものです。

一方情報のスピード化はご承知のとおりでインターネットはじめ情報機器の進展で即座に手元で試合の結果が日本だけでなく世界の情報を入手できる時代が目の前に来ていることも事実です。

すでにこれらのことについてインターネットのホームページを立ち上げ開設し今までは試合結果がすぐに得られたり大会情報もかなり高度化され大変愛好者にとって有り難いことと思います。今後ナショナル選手の横顔、メッセージ等が見られ、聞かれ常時開かれていればより選手と読者が身近なものになるのではないでしょうか。コンテンツについても逐次内容をご検討され一層充実されればと考えます。

当面は印刷物（機関誌）とインターネット等を駆使しながら今後のことについてはメディアの専門家を交え意見交換をおこない来たるべき21世紀に向けまして日本協会並びに機関誌編集がますます前進されますことを期待致します。

第5回ヒロシマ国際ハンドボール大会

全日本女子　優勝／全日本男子　第2位

広島県ハンドボール協会副理事長　山　本　　一

1994年に広島市で開催された第12回アジア競技大会のメモリアル大会として翌年から行われているヒロシマ国際ハンドボール大会も早いもので5回目を迎えました。

われわれ広島で大会をお世話させていただく者にとって今年の大会は全日本男女チームが来年1月に熊本で開かれるシドニーオリンピックアジア予選を控えているだけに調整具合を計る意味からも重要な位置付けとなる大会と認識していました。

これまでの大会は男女いずれか4チームずつの大会でしたがオリンピック予選を控えている全日本チームの強化遠征、合宿などスケジュールの都合もあってジャパンカップも兼ねた大会となり参加チームは強化部の意向に沿った男女4チームずつの計8チームとなりました。

◀大会女子MVPに選ばれた田中美音子選手（大和銀行）と山下泉広島県協会会長

男子はヨーロッパからノルウェーのDRAMMEN HANDBALL CLUB（ドラメン）、チェコのAGS HBC JICIN（イィチーン）の両クラブチーム、アジアから韓国体育大学を招聘し、それに全日本ナショナルを加えた4チームでした。

女子はヨーロッパからデンマークのGOG GUDME（グドメ）、アジアから韓国体育大学を招聘し昨年度日本リーグの覇者地元広島のイズミに加えて全日本ナショナルチームの4チームです。

また、今回はIHF、REFEREE COURSEおよびAHF CONTINENTAL REFEREE COURSEが同時に開催され審査員にHERBELT JEGLIC氏（スロベニア）、朴千祚氏（韓国）を迎えアジア各国より16名の受講者が集まりました。上級コースを目指す受講生たちは今大会のゲームの笛を吹くことで実地試験を受けたわけです。

大会は次のように行われました。

7月22日は広島県知事、広島市長の表敬訪問、記者発表会につづき代表者会議を行いました。代表者会議では今大会のルールの確認、ユニフォームの確認等を行いました。大会を終えて感じたことですが、代表者会議において複数のチームが同勝点になった場合などのルールを確認しておくべきであったと反省しています。

記者発表会では、全日本男子の田口隆監督は、「ベテラン主体のメンバーに加藤（本田技研）ら新しい顔を加え、チーム力は上がったと思う。世界を相手にするという意識も高まってきているので楽しみだ。」また、全日本女子の伊藤宏幸監督は「チームは小柄な選手が多いが小柄の特性を活かし、スピードとコンビの正確さを上げてきた。パワーのデンマーク、スピードの韓国、うまさのイズミとタイプの違うチームと戦えるので全日本チームにとっていい機会。」と集まった報道陣の前で今大会に臨むに当たって抱負を語ってくれました。

◀7月22日　平和公園に献花する各チーム代表

7月23日からいよいよゲームの開始となりました。全日本チームの試合を中心に追ってみます。

初戦、男子は直前合宿で伸びたという若手を主体に韓国体育大学戦に臨んだが、韓国ナショナルの白原哲らにてこずり前半戦から主導権を握られ後半追いあげたものの届かずまさかの手痛い一敗を喫した。負けたものの後半から出場したGKの坪根敏宏（湧永製薬）は再三に渡る好セーブで場内を沸かせた。

◀7月25日　湧永製薬選手達によるチビッコスポーツ教室

女子は長身選手を揃えたグドメに対しスピード豊かな攻撃で快勝。好スタートをきった。

2日目、男子はエース中山剛（湧永製薬）の気迫のプレーで前半からリード。後半に入っても課題とする一線ディフェンスがイィチーンの攻撃を防ぎ、26—18で初白星。ようやく軌道に乗ってきたといえる。

女子は相変わらず守備が好調で、今大会全日本メンバーで出場している青戸あかねがイズミの司令塔林五卿を徹底してマークしたのが功を奏しイズミのミスを誘って主導権を握り快勝した。

最終日、男子は前半2点のリードを許したものの自信をつけてきたGK坪根の好セーブで再三ピンチを脱出。加え

てエース中山剛、岩本真典(三陽商会)らの活躍で逆転勝利。通算2勝1敗で2位。

女子はプレスディフェンスで韓国体育大学の攻撃を封じ込め、攻めては田中美音子(大和銀行)や沖土居真子(日立栃木)を中心とした機動力を活かした攻撃で前半で勝負を決定づけ圧勝し3勝0敗で1位。

男子は初戦で韓国体育大学に足元をすくわれたものの良く立ち直り2位。女子は攻守のバランスが良く1位。オリンピック予選に向け、好スタートを切ってくれたものと思います。全日程終了後は会場を広島市内のホテルに移し表彰式、さよならパーティーで国際交流を行い大会の幕を閉じました。

7月23日　全日本女子▶
VSデンマーク戦
上出恵美子選手

◀7月24日　全日本
男子VSチェコ戦
中山剛選手の豪快
なロングシュート

▼同藤井孝志選手

表彰式には8．6平和祈念式を前にして公務多忙の中にもかかわらず、秋葉忠利広島市長がわざわざ会場に来られ、男女1位チームに広島市長杯(HIROSHIMA TROPHY)を授与してくださいました。

今大会の男女MVPは次の2選手でした。

［男子］白　原哲（ペク・ウォンチョル）　韓国体育大学

［女子］田中美音子　全日本（大和銀行）

試合結果は次の通りです。

●試合結果

◎7月23日・甲田会場

〈男子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
ドラメン（ノルウェー）	32	18—9 14—17	26	イィチーン（チェコ）
韓国体育大学	28	17—9 11—16	25	全日本

〈女子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
全日本	24	11—7 13—9	16	イズミ
韓国体育大学	26	9—11 17—12	23	グドメ

◎7月23日・広島会場

〈高校女子招待試合〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
広島県選抜	16	7—8 9—8	16	東海女子高（愛知）

〈女子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
全日本	33	17—10 16—16	26	グドメ（デンマーク）
イズミ	30	13—13 17—10	23	韓国体育大学

◎7月24日・広島会場

〈高校男子招待試合〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
広島県選抜	22	12—9 10—8	17	高知県選抜

〈男子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
全日本	26	10—8 16—10	18	イィチーン
韓国体育大学	30	15—11 15—14	25	ドラメン

◎7月25日・広島会場

〈男子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
全日本	22	10—12 12—8	20	ドラメン
韓国体育大学	36	18—11 18—18	29	イィチーン

〈女子〉

チーム	得点	前半／後半	得点	チーム
全日本	27	17—3 10—13	16	韓国体育大学
グドメ	28	14—11 14—12	23	イズミ

●順　位

〈男子〉

順位	チーム	成績
1位	韓国体育大学	3勝0敗
2位	全日本	2勝1敗
3位	ドラメン	1勝2敗
4位	イィチーン	0勝3敗

〈女子〉

順位	チーム	成績
1位	全日本	3勝0敗
2位	グドメ	1勝2敗
3位	イズミ	1勝2敗
4位	韓国体育大学	1勝2敗

2～4位は得失点差で決定。

「ハンドボールフォーラム21」開催される

「ハンドボールフォーラム21」に参加いただいた講師・役員のみなさん

日本ハンドボール協会としては初めての、『ハンドボールフォーラム21』が、7月17日、東京・大久保駅前のホテル海洋で開催された。このフォーラムは、「国内外のスポーツ環境の変化に対応するため、全スポーツ人の意識改革」を骨子に、アマチュアスポーツ界の現状と、21世紀に向けての展望を語り、日本ハンドボール協会が「ハンドボールを通したスポーツ文化の構築」という大きな指針を掲げ活動を展開しているなかで「21世紀のハンドボール」を睨み、21世紀に向かいハンドボール界の発展を目指すことを目的とした。

参加者は、北は北海道から南は沖縄にまで及び、全国各地から約200名の参加であった。参加母体から参加者を見ると、日本協会役員・委員はもちろんであるが、都道府県協会役員、公認指導者、公認審判員、日本リーグチーム部長、「がんばれハンドボール10万人会」会員、マスコミや学生など多岐にわたった。ハンドボール界の指導的立場にある方々が多く参加した。

講師陣は、21世紀に向けてのハンドボール文化構築という大きなテーマにふさわしく、現在スポーツ界で一流の豪華な顔ぶれであった。なお、予定のバスケットボール女子ナショナルチーム監督の中川文一氏は、急病のため急遽参加を取りやめられたのは残念であった。

◎基調講演

講師　浅見俊雄　テーマ「スポーツ界の構造改革」

講師略歴　現職：日本体育大学教授／東京大学名誉教授

主なる役職：文部省保健体育審議会委員、(財) 日本サッカー協会理事、(社) 日本プロサッカーリーグ参与、(財) 日本オリンピック委員会選手強化本部常任委員、(財) 日本体育協会スポーツ医科学委員会委員、(財) 日本健康・体力づくり事業財団評議員　など

◎パネルディスカッション 「スポーツ文化構築のために」

【佐藤宣践】 (財) 日本オリンピック委員会選手強化本部長

主なる役職：(財) 全日本柔道連盟国際委員長、国際柔道連盟教育理事、ロサンゼルスオリンピック柔道コーチ、アトランタオリンピック本部役員　など

【岡野昌弘】 (財) 日本バレーボール協会Vリーグ実行委員長

主なる役職など：(財) 日本バレーボール協会常務理事、サントリー男子バレーボールチーム監督として全日本都市対抗選手権、全日本バレーボール選手権に優勝

【金子正子】 (財) 日本水泳連盟理事シンクロ委員長、シンクロ委員会強化部長

主なる指導歴：ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ、アトランタのオリンピックでヘッドコーチ、チームリーダー。奥野、小谷などのメダリストを育てる

【河野一郎】 (財) 日本ラグビーフットボール協会強化部長、筑波大学体育科学系教授 (スポーツ医学)

主なる役職：日本オリンピック委員会日本代表選手団本部ドクターを歴任、日本体育協会指導者育成専門委員、日本ラグビーフットボール協会強化推進本部長、国際ラグビー連盟技術委員会委員　など

【野田　清】 (財) 日本ハンドボール協会強化担当常務理事

主なる指導歴：アジア選手権大会、ロサンゼルスオリンピック男子全日本チームコーチ、アジア大会、アジア選手権大会、ソウルオリンピック男子全日本チーム監督　など

コーディネーター

【杉山　茂】 スポーツプロデューサー

元NHKスポーツセンター長、長野オリンピック放送機構マネージングディレクター、現在、Jリーグ理事、文部省保健体育審議会委員、日本体育協会国体委員　など

この試みは、スポーツ界でも珍しく、おそらくハンドボールが初めて手がけたセミナーではないかと思われる。参加者からも「大変によかった」「勉強になった」との反響もあった。この「ハンドボールフォーラム21」の詳細内容については、この機関誌で順次掲載する予定。

なお、「がんばれハンドボール10万人会」会員で、元文部大臣の塩川正十郎氏から、この会に対する激励とご厚志を戴いたことをご報告しておきます。

挨拶に立つ市原則之・日本ハンドボール協会専務理事

基調講演いただいた浅見俊雄先生

熱心に講演に聞き入る参加者たち

コーディネーターの杉山茂氏

佐藤宣践氏

岡野昌弘氏

金子正子氏

河野一郎氏

野田　清氏

IHF／AHFレフェリーコースを実施

審判部長　**斉藤　実**

次代の国際審判員養成は常に意識していなければならない。ここ5年間程アジアではＩＨＦレフェリーコースが開催されていない。現在のアジア諸国の経済状態を見るに、他国で開催するのを待っていても、その開催の見通しは見い出せない。そこで本協会は経済的には苦しいが、それなりの設計図を作っておこうと、兼ねてから審判部総務委員会で予算等を検討していた。

今年の3月、日本リーグプレーオフに来日した、韓国の朴氏が「私と斉藤がＰＲＣに関係している時に、レフェリーコースを開催しないか。経済的にも有利で色々協力できると思う」との意見が出された。早速現時点で実施可能か否か常務理事会で検討し、7月のジャパンカップをモデルに実施に踏み切った。当初は東アジア地区の範囲で実施する予定だったが、ＩＨＦ／ＡＨＦ両事務局から、イランとカタールに受験有資格者がいるので、招待しなさい、との連絡があり両国に案内を出したところ、イランから参加の返事が届いた。

今回は外国からの入国に関してトラブルがあり一時開催が危ぶまれた。しかし日本協会常務理事会、特に国際部の懸命な努力で回避でき開催が可能になった。また、日本から参加の面々にも、事前に上司を訪ね受験了解を得ておいたが、事情により急に参加が不可能になると伝えられ、慌てた部分があったが県協会の努力でこれもクリアーできた。

結局最終的にはＩＨＦレフェリーコースに、韓国・台湾・イラン・日本（仲田稔・植村彰）の4ペア、ＡＨＦコースに、韓国・台湾・日本2ペア（藤井俊郎・大熨嘉彦ペア、家永昌樹・福島亮一ペア）の合計8ペアが参加した。

指導者にＩＨＦ／ＰＲＣからスロベニアのジェグリック氏・韓国の朴氏と斉藤の3名、総勢19名が7月21日広島東急インに集まった。

日程は別表の通りだが、ハードではあったがジェグリック氏、朴氏の柔らかさでスムーズに展開した。この間、スケジュール変更に対する対応や用具の調達等で、地元広島県協会の皆様には、多大なご苦労を掛けてしまいました。円滑運営のために流して下さった大汗に、感謝の言葉もありません。有り難うございました。

モデルゲームは、2×8＝16ゲーム必要だが、ジャパンカップが12ゲーム故、不足の4ゲームを男女韓国体育大学、日本イズミチームの協力を得て充足した。

日本から受験させた3ペアは、既にコンチネンタルの資格を持っている仲田・植村は別とし、コンチネンタルに挑戦させた藤井・大熨（岡山）、家永（大阪）・福島（熊本）は、体格・語学力・レフェリング等を総合し、審査指導委員会との検討で推薦した。特に福島君には、福岡空港から広島までジェグリック氏をピックアップしてもらったが、その豊富な語学力はその道中でフレンドシップが完全にできあがり、講習を有利に展開していた。

結果は、実技テスト・体力テスト・ペーパーテストの成績を、ＩＨＦ／ＡＨＦ事務局に送付したので、事務局からの回答を待たねばならないが、3ペアともパスした状態である。今後の精進努力を期待する次第である。

また、実施に伴う予算は、前例にならい参加者各自の20万円負担、審判部の海外研修費から100万円、日本協会から20万円、更に日本リーグ運営委員会から、将来リーグにレフェリングで還元してもらえることを前提にと、60万円の援助があった。誠に有り難い支援であったし、受験した者に限らず、日本リーグを担当するレフェリーは、この運営委員会の願いを笛で答えていかなければならないことを申し添える。総合して300万円の予算で実施した。

今回ＩＨＦ／ＰＲＣが用意したテーマは6つあった。そのテーマと体力テスト内容を示しておく。

1．アドバンテージルールの適用

・オーバーステップ後のプレーは見るべきでない
・最終的な罰則を与えることを忘れてはいけない

・不必要なゲーム中断をしてはならない

2．段階的罰則は、皆が納得できるように適用しなさい

・可能ならば、３枚のイエローカードを両チームに使うべきである

・より厳しい罰則を与える準備をしておくべきである

・イエローカード適用状況に対して、一貫した考えを持つべきである

3．攻撃側の反則に対して注意深く見なさい

・ゴールエリアラインに対して

・ボールを持っていないプレーヤーの管理

・攻撃側プレーヤーが防御側プレーヤーの腕を掴むことに注意

4．非合法的な得点は許すべきでない

・着地シュート

・ゴールエリア進入後のシュート

・オーバーステップ後のシュート

5．位置取り

・次に起こることを予測した位置取り

・ディフェンススタイルに対応した位置取り

・任務の分担とペアとのアイコンタクトをとりなさい

6．非スポーツマンシップに対してよく見なさい

・ハリウッドスターのような演技に対してよく注意しなさい

・交代地域での行動が正しいか否か見なさい

・報復行為に対して注意しなさい

ペーパーテストについては、175問から30問セットを作ってあり、そのコースによって採用グループを変える。そのほかに15問、説明文を読みそれがルールブックの第何条に示されているかをペアで相談し回答する。

以上が今回のコースの概要です。細かいアドバイス等については、受験生の報告をご覧下さい。

日　程

日付	時間	内容	
7/21		ホテル集合（広島東急イン）	
7/22	9：00～	オリエンテーション（東急イン）	
	9：30～	講義（含むペーパーテスト）	
	12：00～	昼食	
	14：00～	講義（含むペーパーテスト）	
	16：00～	実技テスト　(W) KOR/JPN　JPN (AHF　NO2)	
	17：00～	〃　(W) KOR/JPN　KOR (AHF)	
	18：00～	代表者会議出席	
	19：00～	ウエルカムパーティー出席	
7/23	9：00～	体育館へ出発	
	9：30～	講義	
	11：00～	体力テスト（5種目）	
	13：00～	昼食（ホテルにて）	
	14：00～	試合会場2会場へ実技テストのため出発	
		東区スポーツセンター	湧永体育館
	17：00～	(W) DEN/JPN　KOR(AHF)	(M) NOR/CZE　JPN(IHF)
	18：40～	(W) IZUMI/KOR　TPE(AHF)	(M) JPN/KOR　IRI(IHF)
7/24	9：00～	体育館へ出発	
	9：30～	講義	
	11：30～	昼食（体育館にて）	
		実技テスト	
	13：30～	(W) KOR/DEN　JPN (AHF　NO1)	
	15：10～	(M) KOR/NOR　JPN (IHF)	
	17：00～	(W) JPN/IZUMI　KOR (IHF)	
	18：40～	(M) CZE/JPN　TPE (IHF)	
	20：00～	(M) KOR/JPN　JPN (AHF　NO1)	
	21：00～	(M) KOR/JPN　TPE (AHF)	
7/25	9：00～	体育館へ出発	
	9：30～	講義	
	11：00～	昼食（体育館にて）	
		実技テスト	
	12：00～	(W) IZUMI/DEN　TPE (IHF)	
	13：40～	(M) KOR/CZE　JPN (AHF　NO2)	
	15：20～	(W) JPN/KOR　IRI (IHF)	
	17：00～	(M) JPN/NOR　KOR (IHF)	
7/26	6：30～	広島経済大学グランドへ出発	
	7：20～	クーパーテスト	
	9：30～	朝食（ホテルにて）	
	10：30～	観光に出発	
	16：30～	観光より帰着	
	18：30～	修了書授与並びにさよなら夕食会（ホテルにて）	
	22：10～	Herubert JEGLIC氏、帰国のためホテル出発	

医科学委員会報告

全日本男子・女子選手の栄養摂取状況

スポーツ選手の栄養摂取量はその競技特性と選手の個人特性（体格、体質及び栄養管理の環境条件他）によって適切な摂取熱量と食品の栄養素が決められることが必要であるとともに、それらの準備された食事を完全に喫食することが重要である。

今回、我々医科学委員会と日本体育協会スポーツマン食事調査研究班とが協同調査としてハンドボール全日本男子・女子選手が所属チームを離れて全日本チーム合宿に参加している期間中（バンコクアジア大会直前合宿）の栄養調査を実施した。調査の目的は、栄養摂取の実態を把握して今後の合宿時（年間100～120日間）のみならず、各所属でのトレーニング・試合時の栄養管理の指標を考察してみたので、その概要を報告する。

1、全日本男子選手の調査結果から

（1）平成10年11月19日(木)、20日(金)の2日間、名古屋市大同特殊鋼（株）（昼食･間食）およびホテル（朝食･夜（補）食）時における栄養摂取状況を調査した。調査項目としては、個人別摂取量(おかわり、残食、間食)、体格（早朝体重）およびエネルギー以外の栄養素等とした。

（2）2日間の「メニュー」・平均栄養摂取量（表・1、2、3）

表1　①11月19日メニュー

7:00　朝食(和食または洋食の選択)		11:00　昼食(弁当)	16:00　間食	21:00　supper
和食	洋食			
ごはん 生卵 納豆 のり しめじとわかめのみそ汁 ししゃも いんげんの煮物 ひじきの煮物 サラダ オレンジ	パン スクランブルエッグ ソーセージ ポテトフライ サラダ チーズ オレンジ オレンジジュース	ごはん 冷や奴 なすの漬け物 豚カツ キャベツ トマト 肉団子 きんぴら マカロニサラダ 野菜の煮物 オムレツ	梅おにぎり 昆布おにぎり ふりかけおにぎり	ごはん しめじとわかめのみそ汁 肉ピーマンの炒め物 春巻き わかめ豆腐 ほうれん草のお浸し サラダ菜 オレンジ

②11月20日メニュー

7:00　朝食(和食または洋食の選択)		11:00　昼食(弁当)	17:00　間食	21:00　supper
和食	洋食			
ごはん 納豆 のり サラダ 焼き魚 佃煮 卵焼き ほうれん草のお浸し わかめと豆腐のみそ汁 煮物	パン チーズ ポテトフライ スクランブルエッグ ソーセージ サラダ キウイフルーツ オレンジ オレンジジュース	ごはん 鶏肉の照り焼き エビフライ カニクリームコロッケ 串カツ 生野菜とマカロニ カニ玉 いか数の子 なすの漬け物	梅おにぎり 昆布おにぎり ふりかけおにぎり	ごはん さんまの塩焼き ほうれん草のお浸し サラダ もやしとわかめのみそ汁 マーボーなす バナナ

表2　2日間の平均供食量のエネルギー及び栄養素摂取量

エネルギー	kcal	3351
たんぱく質	g	131.0
脂質	g	127.9
糖質	g	403.4
カルシウム	mg	756
鉄	mg	10.2
ビタミンA	IU	3398
ビタミンB_1	mg	1.39
ビタミンB_2	mg	1.56
ビタミンC	mg	76
たんぱく質エネルギー比	%	16
脂質エネルギー比	%	34
糖質エネルギー比	%	50

表3　2日間平均エネルギー及び栄養素摂取量

No.	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミンA効力 (IU)	ビタミンB_1 (mg)	ビタミンB_2 (mg)	ビタミンC (mg)
1 橋本行弘										
2 坪根敏広	3107	104.0	73.0	473.5	1166	16.2	2248	0.77	0.95	34
3 日原一幸	3520	131.9	117.2	438.4	1161	17.1	2775	1.02	1.43	304
4 角谷裕司	4026	125.5	127.1	546.1	919	18.4	2577	1.11	1.25	80
5 佐々木教裕	4727	147.9	149.4	641.9	1442	21.1	3187	1.40	1.55	612
6 冨本栄次	3961	124.1	98.1	547.1	806	17.8	2623	0.92	1.14	60
7 森山透	4331	134.8	131.8	565.1	993	19.3	2366	1.06	1.22	181
8 中山剛	4238	150.3	117.5	567.9	1118	22.0	2681	1.06	1.45	260
9 岩本真典	3182	114.5	110.6	421.0	742	17.0	2599	0.74	1.04	42
10 末岡政広	3869	119.2	117.2	482.0	1088	16.6	2480	1.00	1.06	54
11 藤井孝志	4991	156.8	166.8	598.9	1613	19.6	3090	1.34	1.75	97
12 杉山裕一	4099	138.9	108.4	550.7	1518	20.2	4301	1.44	2.34	310
13 茅場清	3803	139.5	113.2	524.8	887	21.5	2577	1.08	1.91	306
14 山口修	4005	122.5	123.2	502.4	1212	18.0	3532	1.28	1.54	93
15 広政宣孝	4054	136.4	133.7	480.7	1251	18.1	2618	1.12	1.38	98
16 辻昇一	3722	124.7	82.8	537.4	767	20.9	2594	0.98	1.27	128
平均値	3976	131.4	118.0	525.2	1112	18.9	2817	1.09	1.42	177
標準偏差	501	14.2	23.5	59.5	269	1.9	526	0.21	0.37	157

1日4回食の提供メニューによる平均日間総熱量は3,351kcalであるが、選手の平均実摂取量(表3)は3,976kcalであった。

(3)2日間の提供メニューの特性

食品のバランス(食品別に重量計測)を2日間の平均供食量とほぼ同水準の3,500kcalとした充足率(図1)でみると、①乳・乳製品が極端に少ない(メニューに未提供)、②卵、肉、魚介、豆・豆製品類の「たんぱく質」は多い、③野菜、果物類の「ビタミン・ミネラル」が少ない、④油脂類が多い。の内容でよいバランスと言えるメニューではない。

(4)提供メニュー3,500kcalに対する選手の総摂取熱量は3,976kcal(112%)であるが、全選手とも実摂取量(個人別摂取量)からみて、食事のバランス(目安として、たん白質約12%、脂質約25%、糖質約60%のエネルギー比)がよくないと評価される。すなわち、15名中2名を除き、脂質摂取に対して糖質・鉄・ビタミン類の摂取不足が指摘される(図2)。糖質はエネルギー源の主要素であり、かつ持久力の源でもあるので「ごはん」を残さずにしっかり食べる必要性の認識が十分ではない。次に鉄は身体の中で酸素を運ぶヘモグロビンをつくるものであり、不足するとスポーツ貧血に陥るのでレバー、ホウレン草、貝類は毎日摂取する食習慣が望ましい。さらにビタミン類の不足が挙げられる。ビタミンCは、トレーニング中や間食中にかなりドリンク類からとっているが、トレーニング中・後に産生される乳酸(疲労物質)を排除する働きをもっていることからこまめに果物や新鮮な野菜をとり、かつ食事時に野菜類は完全喫食するよう心がけるべきである。

疲労物質が翌日まで取り除かれずにいると、呼吸回路が円滑に働かないばかりか、疲れやすくかつ、さらに乳酸が産生されやすい体質にもなりかねない。

以上2日間のみのエネルギー摂取量の調査結果から選手個人に適切なエネルギー量の提示は早計であるので共通的アドバイスに止めた。今後は運動種類別の摂取量の背景として、基礎代謝基準値や運動強度指標を実測して求める必要がある。一面栄養調査以前に合宿時の献立指導も効果的である。

(鈴木久乃、亀井明子、蒲生晴明、酒巻清治、西山逸成)

2、全日本女子選手の調査結果から

平成10年11月19日(木)、20日(金)の2日間、四日市市ジャスコ体育館会場時に日本体育協会スポーツマン食事調査研究班とハンドボール協会医科学委員会とで協同の栄養調査を実施したのでその概要を報告する。

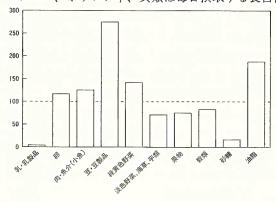



図1 3500kcalの食品構成に対する充足率

図2 T選手の摂取量に対する充足率

	充足率(0%〜200%)	摂取量	目標量
エネルギー	100%	2812	2800 kcal
タンパク質	88%	92.0	105.0g
脂質	103%	95.3	93.0g
糖質	106%	408	385g
カルシウム	60%	597	1000 mg
鉄	62%	11.1	18 mg
ビタミンA	71%	2118	3000 IU
ビタミンB1	92%	1.84	2.00 mg
ビタミンB2	95%	1.91	2.00 mg
ビタミンC	186%	372	200g

図3 とりすぎ、足りない栄養素は?(選手としての目標量を100%として表しました)

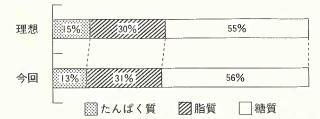
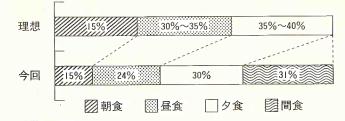



図4　エネルギー、食事のバランス

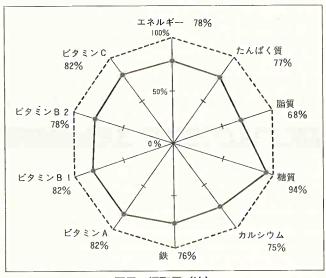



図5　摂取量(比)

(1)対象はアジア大会代表選手16名、年齢平均23.0歳、身長平均166.2cm、体重平均61.5kgであり、BMI(体格指数)平均22.3と良性水準値である。

(2)栄養のとり過ぎ、不足の栄養素は?(図3)

女子選手としての各栄養素の目標量を100%として、実際の平均摂取量と比べました。「目標」のエネルギーは、日本人の栄養所要量20歳代の『やや重い』に体重をかけてだした。たんぱく質は、目標エネルギーの15%とした(体重あたりでは1.7g)。脂質は、目標エネルギーの25～30%が目安といわれているが、近年の栄養摂取状況から30%とした。糖質は、目標エネルギーから、たんぱく質と脂質の分を差し引いた55%とした。体を作る、体調を整える等、コンディショニングに必要なミネラル・ビタミンの目標量は、一般成人女子の1.5～2倍とした。

図から、合宿中のトレーニングに必要なエネルギーは、きちんととれていることがわかる。しかし、たんぱく質やカルシウム、鉄はもっととったほうが良い。ビタミンCはトレーニング中の飲料や差し入れの果物により十分とれているようである。

しかし、これはあくまでも平均値であるので、食べた人・食べない人の差は大きい。

個人には、それぞれの結果票にメッセージを書いて今後の参考に配布した。

(3)エネルギー・食事のバランスは?(図4)

①エネルギーのバランスは?

目標のエネルギーバランスと今回の平均を見てみると、たんぱく質の不足と糖質が上限を超えていることが気になる。たんぱく質は食事のおかずを残すため、また脂質が多いのは間食にチョコレートやスナック類が多かったためと思われる。

②各食事のバランスは?

朝・昼・夕の食事のウエイトを見てみると、「理想」では『朝からしっかり食べる』を目標に、少しずつボリュームを多くしてみた。スポーツも種目や試合のスタイルによっては間食(補食)が必要であるが、今回の合宿は最終調整とのことで、それほどきついようではなかったので、間食は考慮しなかった。

しかし結果では、なんと1日の摂取エネルギーの31%が間食(ヨーグルトや果物も含む)からで、少なからず驚いた。間食は1人1日平均8.3回、その理由は『なんとなく』が53%であった。朝食のウエイトが軽い(食事を残す)のは夜のおやつも関係していると思われる。

(4)食事の提供量に対する摂取量は?

朝・昼・夕の食事の提供量を100%として実際の摂取量を見てみると、約80%位の食べ方でおかずを残しているのがわかる。糖質は、当番がよそった分のごはんはほとんど食べたということである。しかし量は多くない(1杯150g程度)。

合宿中のトレーニングに必要なエネルギー量は、ほぼ摂取されている。しかしその30%が間食からとっていることは問題であるので、食事は残さず食べることが基本である。食事以外に果物、牛乳はしっかりとって欲しいものである。

(5)提案・アドバイス

選手には『食事はしっかり残さず食べる』を基本に、できればごはんは2杯、そして間食は果物・乳製品を勧めたい。食事への注文は、夕食には肉と魚の両方があるのはとてもいいことであるが、選手のコンディショニング・スタミナを考えたら、鉄やカルシウム補給にレバーやひじき・あさりの佃煮等を常備菜とし、緑黄色野菜もふんだんに取り入れたいものである。

監督やコーチには、トレーニング終了後はできるだけ早く宿舎に帰り、食事をさせて欲しい。スポーツドリンクのポカリスウェットやエネルゲンは今の倍に薄めたほうが吸収しやすいことにも配慮して欲しい。

(石井恵子、柳沢香絵、永田朋子、表理恵、西山逸成)

列島縦断【青森県の巻】

協会創設50周年を控えて

青森県ハンドボール協会理事長　横山　繁

青森県協会の歴史

青森県にハンドボールが導入されたのは昭和24年に青森中学校に赴任した太田尚充先生（元会長・現顧問）の体育の授業が始まりである。協会設立にはそれから２年を要し、26年の発足となる。当時県内には高校男子の２チームがあったが、交流試合に飽きたらず県外のチームと競ってみたいという欲求が沸き上がるのは当然で、この年青森高校が初めて県外遠征（当時の雄、函館中部高）を実施した。その時、ジャンプシュートを目の当たりにして驚いたと先輩諸兄の回顧にある。

ともあれ公式大会出場のためには県協会の設立、日本協会や体協への加盟が大命題となり、当時バレーボール協会会長であった鹿内一胤先生（故人）に三顧の礼をつくし、初代会長に就任してもらうことになり、太田先生が理事長として県協会の創設を見ることとなった。27年には青森高校が全国高校総体に初参加、緒戦奈良育英高に12対２で勝利、青森県の公式対外試合の輝かしい第一歩を記したのである。また、29年には初の東北大会を開催した。これに合わせて、一般男子青森クラブの結成があり、社会人の歴史もスタートした。

40年には高体連専門部も発足、次第に加盟チームを増加させてきた。特筆すべき点として、42年に実業団チーム青森マツダの結成があるが、一地方都市の企業には存続が難しく数年でクラブチームへと移行せざるを得なかった様である。44年には高校女子の４チームが結成をみ、女子の歴史の始まりとなった。

かくして少しずつではあるが、チーム数の増加、指導者の増加があり、協会運営も試行錯誤を繰り返しながら現在に至っている。

運営と実績

県協会といっても活動の中心は高校の先生方が主となっているのは、創設時から相も変わらぬ状況である。しかし、地域毎に青森市、野辺地町、七戸町、十和田市に協会の創設をみ、地域の高校の卒業生が運営に参加する場面が多くなり、社会人チームが活発になってきた。

これまでの主な大会開催の実績として、東北ブロック持ち回りの各種大会は勿論であるが、筆頭は52年の「あすなろ国体」であろう。当時の役員は数年にわたる運営の準備と選手強化、はたまた選手として一人で何役もこなし、競技においては存分に県民を楽しませてくれたのである（少男３位で、総合３位）。また、遠隔の地ではあるが62年の第12回日本リーグ以来、ほぼ毎年日本リーグは開催させて頂いている。これは、レベルの高いゲームを見る機会が少ない青森県にとっては大きなイベントになっている。平成７年には、東日本学生選手権を開催し、大きな大会運営のノウハウを蓄積することができた。

競技力の成果としては、46年に社会人の青森クラブが、東北大会で初優勝。49年には七戸ユニオン国体初出場。同じく七戸ユニオンは53年から55年まで、全国クラブ大会で連続３位となっている。52年には成年女子あすなろクラブが、全日本総合に出場を果たしている。少年では56年に、青森商高がインターハイでベストエイト、選抜東北予選でも青森商高は55、56と優勝し全国大会に出場している。58年には野辺地高がインターハイに初出場。女子では63年まで青西高が19年連続インターハイ出場を果たしている。青中央高が翌年にインターハイに初出場、平成９年には、青中央高主体のチームがミニ国体で初優勝し、青森県の少年女子では初めて国体出場をしている。

スポーツ立県宣言

青森県協会も来年で50周年という大きな節目を迎える。この多様化した時代にあってハンドボールがどのようにあるべきかは、青森県ならずとも大きな課題ではないだろうか。

今年青森県では、「スポーツ立県宣言」というものを打ち出し、スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県を県民の目標に据えた。また、近年東北各県では国体やインターハイ、全中といった大目標となる大会開催が続き、強化策が着実に根付いており、青森県だけが取り残されている感がぬぐえない。幸い青森県は学閥もなく、伝統的に協力体制が整っていると自負しているので、現・齊藤浩会長の指導の下、将来を見据えた競技力向上の計画立案が急務である。全ての県を参考、目標として、ハンドボールの強い青森県となることを夢見て努力を続けたいと思う。

「高校選手権50周年の課題」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

真夏の祭典、全日本高校選手権が産声をあげて50周年、半世紀の輝かしい歴史を数えた。記念すべき今年は、みちのく岩手に男女各48校がつどい、熱い戦いを繰り広げ、男子は県立伊奈高等学校、女子は県立福井商業高等学校がけわしい道のりを制した。

1950年にスタートした頂点を目指す戦いは、幾多の名勝負、名ドラマを生み、ハンドボールファン、愛好者に夢を与え続けてきた。こうした歴史と伝統を振り返ってみると、何よりも先ず挙げなければならないのが、全日本高校選手権はもちろん、各都道府県で運営に当たってきた高校指導者の情熱と努力の汗の結晶である。

と同時、その一方では強化に日夜取り組んできた"愛情"でもあろう。この重要な役割を担い、ハンドボール競技の発展に尽力されたことは、大いに感謝すると同時に、頭が下がる思いである。

高校生年代に培った基本技術が、のちに全日本ジュニア、全日本とつながっていくことは間違いないことだ。日本ハンドボール界の基盤づくりに貢献してきたことは、過去の歴史を振り返れば、一目瞭然である。

さて、少子化が呼ばれ、2002年には全校完全週５日制になる。若者たちの楽しみもさらに多様化することは、だれひとりとして否定はできない。

今後、こうしたきびしい状況の中で、ハンドボール愛好者をどのように育て、魅力あるスポーツとしていくか—むずかしい、そして大きな課題といわざるを得ない。これまでのように情熱だけで、乗り越えられるほど甘くはあるまい。地域によっては部活そのものの活動に支障がすでに出てきているともいわれる。ハンドボールの灯を消さないためにも、魅力あるスポーツだということを積極的にアピールする必要があろうし、ピンチを乗り切る強力なバックアップがほしい。岐路に立つ高校界は21世紀への"宿題"である。

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。マイレージの楽しさも大きく広がります。

空港でも余裕のチェックイン

出張先でのショッピングもバックアップ

旅の安心。保険もサポート

ホテルのご利用もおトク倍増

航空券ご予約が、スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円=1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売 ●高島屋 ●日本石油SS ●出光SS

ANA 髙島屋 出光

さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

飛ぶたびに基本マイレージの15%(ワイドカードの場合。一般カードは5%)のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル(ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル)のボーナスマイルでおトクに貯まります。

今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

今日からマイルが貯められるインスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707まで
[受付時間] 9:30~17:00(土・日・祝・年末年始を除く)
全日空各支店、空港カウンターにもございます。

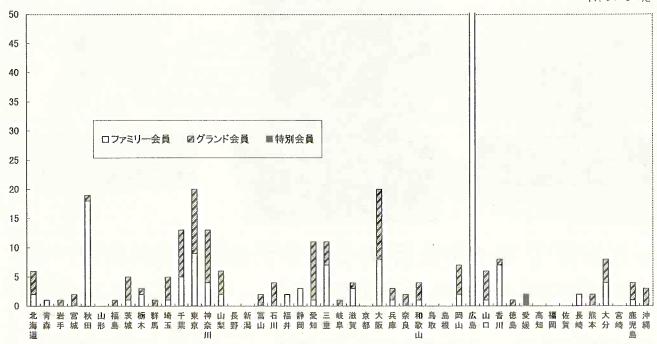
「がんばれハンドボール10万人会」推進活動始まる

（財）日本ハンドボール協会では「がんばれハンドボール10万人会」推進本部が設置されました。推進本部長には、関東ブロック選出佐分正典理事が就任され、副本部長に実業団連盟近森理事長、学生連盟福地理事、高体連佐藤理事が就任されました。なお、高体連佐藤理事においては遠隔地のため、推進活動に機動性を持たせるため実務代行として高体連事務局の本田眞吾氏が選出されています。

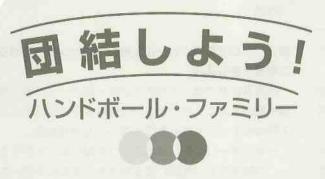
今後の展開としては、実行委員会形式の組織つくりに向けて、各都道府県に推進委員を設置して頂くことになっております。すでに委員の推薦依頼状は発送されておりますが、各都道府県協会においては、現状の事業実行で手一杯であろうとの意見により、比較的手隙の副会長レベルでのご就任をお願いしております。

また、推進本部からは、各評議員に向け、5名づつの会員勧誘のお願いを発送すると平行して、ナショナルチームOB・OGの名簿整理に入っております。

「がんばれハンドボール10万人会」は、新たなハンドボールファン層の開拓とともに、ハンドボール界のOB・OGのハンドボール会場への呼び戻しが大きな使命になっております。何卒、都道府県協会におかれましても、チーム登録、役員登録をされていない方々から、新たな会員の掘り起こしにご協力下さいますようお願いいたします。

会員数の現在状況につきましてはグラフに示す通りですが、広島県協会のご努力によるところが大きくなっております。

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会

団結しよう！

ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

連載⑥

世界の技術・戦術を学ぶ

—World Handball Magazine—

指導委員会

4月号からの連載は、「世界の技術・戦術を学ぶ」と題して、IHFより発行されるWorld Handball Magazineのなかの技術練習として取り上げられている部分を、指導委員会を中心に多くの情報担当者の協力を得て訳していただきそれを構成して多くのハンドボール関係者のみなさまへ情報を提供しようとするものであります。

今月号は、先月号の続きとして、フランスの5：1そしてスウェーデンの4：0＋2防御に対する効果的な攻撃方法を紹介するものです。

この連載の中におけるポジションの表記に関しては、基本的には参考図に示すドイツ語表記を利用いたします。

（指導委員会　笹 倉 清 則）

水　上　　　一（筑波大学）

フランスの5：1防御に対する攻撃

フランスの5：1防御

連続写真Eの写真1に左45がボールを保持したときの典型的な防御状況を観察することができる。

—右45防御者（HR）は、マークする相手左45（RL）に対して積極的に対応する。

■同時にトップ防御者（VM）は、自分のマークすべきセンターを無視して、左45（RL）が中央へ走り込むのを身体で阻止しようとする。

■トップ防御者（VM）は、非常に多様な対応を行い、時には3人のバックコートプレイヤーに対して高い位置でアタックに出ることもある。

例えば、アイスランドの世界選手権大会において、多くのチームは、攻撃でトップ防御者（VM）のJackson Richardsonに対する組織的で効果的な攻撃をどのようにするかという問題に直面した。

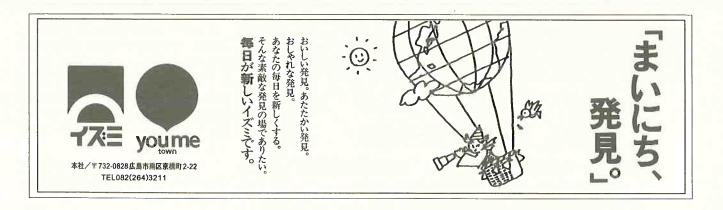
例1、クロアチア：バックコートでのロングパス

連続写真Eでは最初の可能性を見ることができる。ここでは（写真1、2）左45（RL）はトップ防御者（VM）をかわして、隣のセンターではなく、直接右45（RR）にパスをしている。右45（RR）はこのサイドで防御側の数的不利を右サイドへの素早いパスを利用することでシュートに結びつけている（写真3、4）。しかし、この際、左45（RL）から右45（RR）へのロングパスが全く危険がないわけではない。なぜなら、トップ防御者（VM）がジャンプしてこのボールをブロックしようと試みているからである（写真2）。

例2、クロアチア：ボールを持たないセンターのポジション移動（走り込み）

連続写真Fでは、クロアチアチームの一つの戦術的な手段を観察することができる。それは、まさにフランスの5：1防御のもっとも弱い部分を突いたものである。

—センター（RM）はポスト（KM）にパスをする。その際ポスト（KM）は9mライン上あたりでパスを受ける（写真1）

—ポスト（KM）が内側に走り込んだ右45（RR）にパ

写真E-1

写真E-2

写真E-3

写真E-4

写真F-1

写真F-2

写真F-3

写真F-4

写真F-5

写真F-6

写真F-7

写真F-8

スをしている間（写真２）に、センター（RM）はトップ防御者（VM）の背後に走り込み（写真３、４）右側のポジションをとるようにする（写真４）。

—その際、右45防御者（ＨＲ）をトップ防御者（VM）との間にマーク確認の問題が生じる。誰がセンター（RM）を引き受けるか？（写真４、５）

—右45（ＲＲ）は左45（ＲＬ）にパスをする（写真５、６）。そこにできた空間や、消極的な防御ポジションをとる防御者ＨＲに対して、クイックでのシュートを効果的に利用できることになる（写真７、８）。ここでのさらなる可能性は、左45（ＲＬ）から右45（ＲＲ）へのクロスのリターンパスがあげられる。

例３、ボールを持たない左45のポジション移動（走り込み）

図10ａと10ｂでは、フランスとのゲームからスペインチームの多様な攻撃手段を観察することができる。

—ここではセンター（RM）が９ｍライン上あたりのポスト（KM）にパスをしている間にボールを持たない左45（ＲＬ）がゴール付近のフリーな空間に走り込んでいる（図10ａ）。特にトップ（VM）が左45（ＲＬ）のポジションに移動したセンター（RM）を積極的に守っている（Duishebaevに対する防御バリエーション）状況で、ポスト（KM）から右45（ＲＲ）にパスが渡ったとき、いろいろな攻撃可能性が考えられる。例えば、右45（ＲＲ）による内側への突破プレイ、右45（ＲＲ）によるポスト（KM）（走り込んだＲＬに）

図10-a

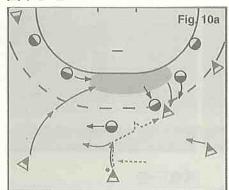



図10-b

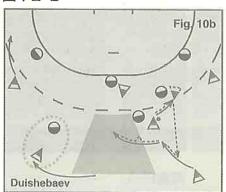



図11-a

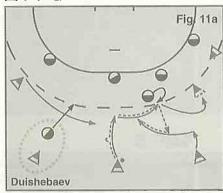



図11-b

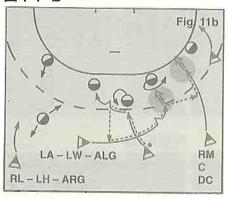



図12-a

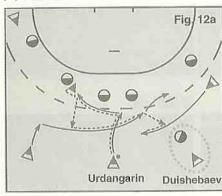
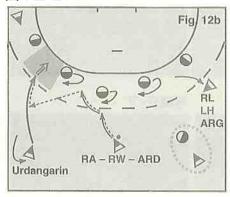



図12-b

へのパスプレイ、あるいは左45（ＲＬ）のポジションに移動しているセンター（RM）とのクロスプレイなどである（図10ｂ）。

5：0＋1防御に対する攻撃

フランスチームの数的優位の防御

予選ゲームのスペイン対フランスのゲームの中でフランスは数的優位（しばしば同数でも）の防御に5：0＋1防御を用いた。ここでは、スペインがサイドプレイヤーを戦術的に組み入れた非常に興味深い攻撃手段を観察できた。

例、スペイン：クロスとサイドプレイヤーのポジション移動プレイ

図11ａと11ｂでは、左45（ＲＬ）のポジションでDuishebaevがマンツーマンで守られている。センター（RM）と右45（ＲＲ）がクロスをする間に左サイド（ＬＡ）がフリースローラインに沿って移動してくる（図11ａ）。右45（ＲＲ）はジャンプシュート動作から左サイド（ＬＡ）とクロスプレイを行い、その後左サイド（ＬＡ）はシュート動作で防御にプレッシャーを与える。左サイド（ＬＡ）は右45（ＲＲ）のポジションに移動していたセンター（RM）にパスを行う。センター（RM）は防御者ＡＬとＨＬの間からシュートをねらう。

図12ａと12ｂでは、Duishebaevが右45（ＲＲ）のポジションで、マンツーマンを受けていて、逆サイドから同じような経過が示されている（スペインの7：6のゴール）。ここでは、センターのポジションにいる左利きのUrdangarinと左45（ＲＬ）がクロスプレイを行う間、右サイド（ＲＡ）が同時に移動してくる。左45（ＲＬ）と右サイド（ＲＡ）がクロスプレイを行う間、Urdangarinは瞬間フリースローゾーンにとどまり（ポジションチェンジのフェイク）その後素早く左45（ＲＬ）のポジションに位置取るようにする。

右サイド（ＲＡ）は左45（ＲＬ）のポジションにいる左利きのUrdangarinにパスを行い、Urdangarinは防御者ＨＲとＡＲの間から効果的なステップ（ランニング）シュートを行う。

4：0＋2防御に対する攻撃

スウェーデンの4：0＋2防御

クロアチアとのオリンピック（アトランタ）決勝で、Bengt Johaunsson（スウェーデン監督）は後半15分再度チームの防御フォーメーションを変えた。15：20の劣勢場面で彼のねらいはもう一度ゲームを有利に導き、“劣勢をはねかえす”ことにあった。

写真G-1

写真G-2

写真G-3

この4：0＋2防御フォーメーションは、元来大きなリスクを伴った防御であり、例えばゴールエリア付近に自由な空間を与えるものである（写真5）。LindgrenとM. AnderssonはクロアチアのセンターーRM）と左45（RL）であるCavaxを4：0＋2防御フォーメーションのもとマンツーマンで守る。

写真5

もし、マンツーマンで守っている攻撃プレイヤーがポスト（KM）方向に走り込んだら、そのプレイヤーを下の防御プレイヤーに引き渡して、バックコートにいる次のプレイヤーを密着してマークするようにする。

例、クロアチア：ボールを持たないプレイヤーのプレイ

写真5では、最初のプレイの可能性を観察することができる。ここではポスト（KM）がバックコートでサイドプレイヤーからパスを受けている。時には、このポスト（KM）とマンツーマンを受けているプレイヤーとの間でのリターンパスが見られることもあった。スウェーデンチームはラスト5分間で幾度も1点差まで接近したが、最終的にゲームをひっくり返すことはできなかった。その理由として4：0＋2防御に対するクロアチアチームの的確で効果的な攻撃手段をあげることができる。クロアチアは最後の6回の攻撃で貴重な4得点を上げることができた。

最終局面での連続写真Gの写真1～3では、効果的な攻撃を作り出す基本としてのきわめて力動的なボールを持っていないプレイヤーのプレイを見ることができる。

—写真1：クロアチアのマンツーマンを受けている左サイド（LA　Covar13番）はゴール近くへ移動する。同時に右サイド（RA　no4）はパスが受けられるようバックコート方向に移動する。

—写真2：マンツーマンを受けている左サイド（LA Covar13番）は自分のホームポジションに移動しているのが観察される。左サイド（LA）をマークしている防御者はその地点まで左サイド（LA）について守る。同時に右サイド（RA　no4）は中央方向へ走り込み、パスをもらいシュートをねらう。

—写真3：しかし、右サイド（RA　no4）は自分でシュートせず、高度で創造的な動きからポスト（KM）にパスを行い、ゲーム終了直前27：25とゲームを決定づける得点をあげた。

クロアチアチームの成功の要因は、ボールを持たないプレイヤーの多様な走りを伴った動き、バックコートで効果的にプレイすることのできるポスト（KM）とサイドプレイヤーの存在があげられる。

中学校・高等学校生徒のスポーツ活動の現状と課題 その1

――スポーツに関する意識・実態調査の研究報告書(県立体育センター)より――

神奈川県ハンドボール協会理事長　川邊孝夫（文責：同理事　石川泰弘）

21世紀に向かい急激な社会の変化は、国際化、情報化、都市化、少子化・高齢化を生み出し、またスポーツ活動においては、国民総スポーツ（生涯スポーツ）時代の到来が叫ばれている。

現在、学校部活動は、生徒の価値観や興味・関心の変化による運動離れ、楽しみ方の多様化、顧問の過重負担・専門性の格差、顧問不足、高齢化等、多くの課題を抱えている。

これらの現状を踏まえ、文部省では平成４年度より、運動部活動研究推進校の指定及び研究発表大会の開催、平成８年度には「中学校・高等学校のスポーツ活動に関する調査」を行い報告書が出されている。本県においては、平成６年度に「運動部活動研究協議会」が設置され、平成８年度には「スポーツ振興審議会」において、運動部活動の問題について審議され、その後建議がなされた。加えて各種機関でスポーツ活動の調査研究が行われているが、その中で運動部活動の実態及び意識調査を県立体育センター指導研究部調査研究室（現スポーツ科学研究室）が、また神奈川県高等学校体育連盟調査研究委員会が中学校、高等学校の顧問を対象に実態調査等を行っている。それらの資料を参考に神奈川県内の運動部活動の現状と今後の課題について考えることにより、21世紀に向けたハンドボール競技を普及・発展させる一助になれば幸いである。

① 運動部の状況

（１）生徒の所属状況

図１－１は、「中学校の所属状況」である。「運動部」が68.1%、「文化部」19.7%、以下「無所属」、「学校外の文化活動」、「スポーツクラブ」の順であった。

図１－２は、「高校生の所属状況」である。「運動部」が43.8%、「無所属」34.3%、「文化部」16.6%、以下「スポーツクラブ」、「学校外の文化活動」の順であった。

生徒の運動部等への所属状況（複数回答可）

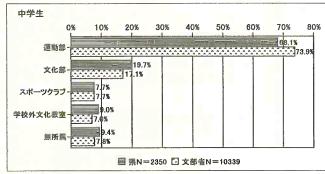
図1－1

高校生
0%　10%　20%　30%　40%　50%　60%
運動部　43.8%　49.0%
文化部　16.6%　22.0%
スポーツクラブ　5.7%　4.2%
学校外文化教室　3.2%　3.1%
無所属　34.3%　27.3%
県N=2836　文部省N=11541

図1－2

（２）運動部の新設、休廃部による増減

表１－１は、「過去３年間での新設、休廃部数」の結果である。

「新設理由」は、中学校では生徒・保護者の要望が各１校、高校では生徒の要望が５校、部員の増加が３校、指導者確保が２校であった。「廃部理由」では、中学校は指導者不在５校、部員不足３校、高校では部員不足11校、指導者不在５校という傾向であった。ハンドボール競技に関しては、中学校の設置部数が平成７年度に98校（男子60校、女子38校）に対し、平成10年度には、83校（男子50校、女子33校）に減少。部員数は、平成７年度2436名（男子1733名、女子703名）に対し、平成10年度1714名（男子1150名、女子564名）で722名減少した。

高校の設置部数は、平成７年度192校（男子109校、女子83校）に対し、平成10年度には、同じく192校（男子105校、女子87校）であった。しかし、部員数においては、平成７年度3414名（男子1957名、女子1457名）に対し、平成10年度には、2371名（男子1439名、女子932名）で1043名と大きく減少している。

中学校・高校ともに、全体で運動部数・部員数の減少、指導者不足は共通している。特に高校では部員不足が顕著である。

過去3年間での新設休・廃部数

	3以上減	1～2減	1～2増	3以上増
中学校	0	8	1	0
高　校	4	8	5	1

表1－1

（３）運動部顧問の状況等

図１－３は、「運動部顧問の割合」を調査した結果であ

る。
中学校は66.9%、高校では71.8%であった。

図１－４は、運動部顧問で、「技術指導をしている」と「年齢」との関係からみた図である。顧問全体からの割合は、中学校72.8%、高校では55.3%であった。

この結果から、高校では、複数顧問制や全員顧問制をとっている学校が多く、顧問ではあるが技術指導まで行える割合は、全体の約半数であることが分かった。

また、年齢別にみると、「35～45歳未満」が中学校で36.9%、高校で28.6%で最も多かった。また、「30歳未満」は中学校で12.8%、高校で4.9%であり、技術指導をしている年齢は、「35～45歳未満」をピークにそれ以上の年齢層では割合が減少していることが分かった。

ア　運動部顧問の就任状況

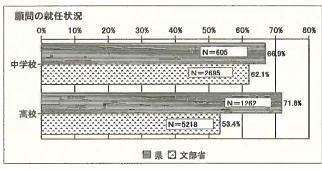



図１－３

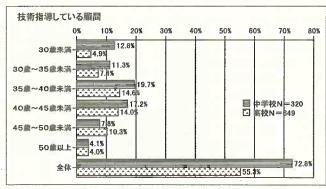



図１－４

（４）生徒の学期中の活動状況

図１－５・図１－６は、「学期中の週当たりの活動日数」である。

中学校では、「６日」が42.8%、次いで「５日」21.6%であった。高校では、「６日」が46.7%、次いで「７日」の21.8%であった。

図１－７・図１－８は、「平日の１日当たりの活動時間」である。

中学生では、「２～３時間未満」が52.8%で最も多く、次いで「３～４時間未満」が28.9%であった。

高校生では、「２～３時間未満」が42.9%で最も多く、次いで「３～４時間未満」が35.4%、「４時間以上」10.5%であった。

活動日数と活動時間の関連からみると、中学生は「６日で２～３時間未満」22.9%で最も多く、高校生では「６日で２～３時間」21.3%、次いで「６日で３～４時間」17.8%であった。

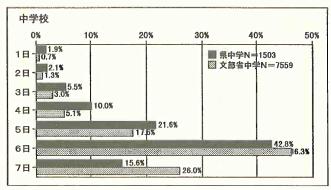



図１－５

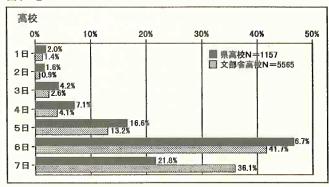



図１－６

１日当たりの活動時間

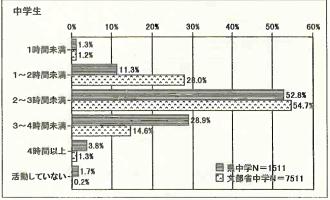



図１－７

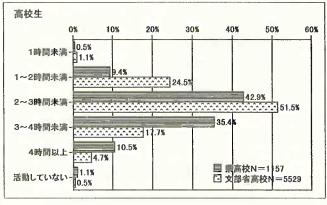



図１－８

（５）運動部顧問の指導日数・時間

図１－９・図１－10は、運動部顧問の学期中の週当たりの指導日数である。

中学校では、「６日」が24.0%、次いで「３日」19.1%であった。高校では、「１日」が29.5%で最も多く、次いで「２

日」の18.2%であった。

図1—11・図1—12は、運動部顧問の「平日の1日当たりの指導時間数」である。　中学校では、「1～2時間未満」38.2%、次いで「1時間未満」33.8%であった。高校では「2～3時間未満」31.8%、次いで「1時間未満」30.1%であった。

指導日数と指導時間との関連からみると、中学校では「1日1時間未満」13.9%、高校では「1日1時間未満」18.6%で最も多かった。

以上のことから、全体的な運動部数は減少傾向にあり、その理由としては、指導不足や部員不足が挙げられている。また、技術指導できる顧問にも高齢化がうかがえ、これに対する対策が望まれる。

運動部の活動は、中学校・高等学校ともに、生徒の活動日数・活動時間に比べ、顧問が指導している日数・時間ともに少なく、部員たちだけで活動していることが多いことが分かった。このことから、安全や事故防止の面から、指導時間を確保し、併せて事前の事故防止の指導が必要であると考えられる。

中学校.運動部顧問の学期中の週当たりの指導日数

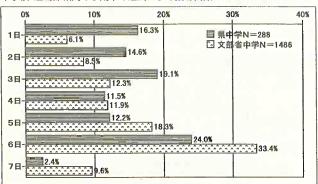



図1—9

高校 運動部顧問の学期中の週当たりの指導日数

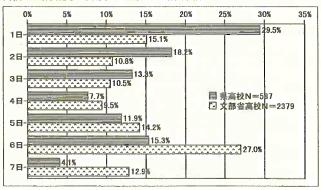



図1—10

中学校 運動部顧問の平日の一日当たりの指導時間

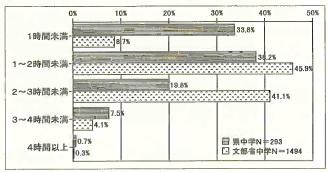



図1—11

高校 運動部顧問の平日の一日当たりの指導時間

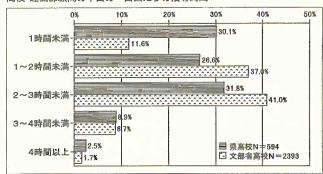



図1—12

2 運動活動の意義

(1) 運動部活動の満足度

図2—1は、運動部員に対し、「入部したきっかけ」を調査した結果である。

「ただ何となく」中学校27.7%、高校生27.9%、「練習試合を見て」中学校17.5%、高校生15.3%、「友達に誘われて」中学校13.8%、高校生16.5%であった。

図2—2は、「運動部の活動は楽しいか」を調査した結果である。

中学校は、69.5%、高校生は、71.6%が「かなり楽しい」か「楽しい」と回答している。

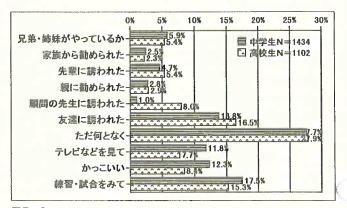



図2—1

活動は楽しいか

	かなり楽しい	楽しい	どちらでもない	楽しくない	まったく楽しくない
中学生N=15	27.4%	42.1%	16.0%	7.9%	6.6%
高校生N=11	27.7%	43.9%	17.8%	6.1%	4.5%

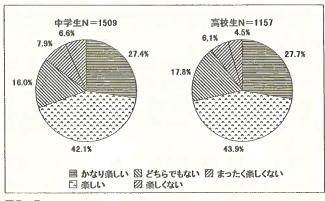



図2—2

（2）生徒の運動部活動に対する欲求

図２－３・図２－４は、運動部員が「運動部活動を通してどのような欲求がありますか」の結果である。

中学生は、「スポーツそのものを楽しみたい」84.7%、「体力を維持・向上したい」80.0%、「競技会でよい成績をあげたい」71.6%であった。

高校生は、「スポーツそのものを楽しみたい」85.2%、「体力を維持・向上したい」81.3%、「勝利感を味わいたい」68.6%であった。

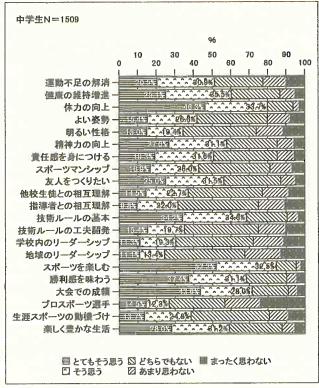



図2−3

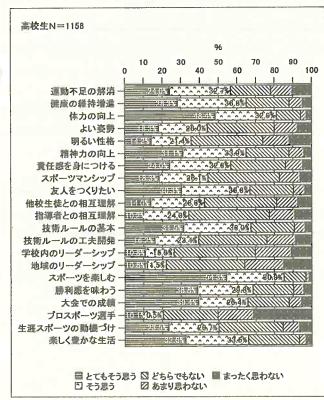



図2−4

（3）保護者・教員からみた運動部活動の意義

図２－５・図２－６は保護者に対して、「現在の運動部活動についてどう思うか」を調査した結果である。

中学校の保護者では「体力を維持・向上できる」85.4%、「運動不足を解消できる」82.1%、「クラスや年齢を越えた友人ができる」82.1%であった。

高校生の保護者では、「体力を維持・向上できる」87.1%、「クラスや年齢を越えた友人ができる」85.4%で「運動不足を解消できる」83.3%で、中学校・高校ともに上位であった。

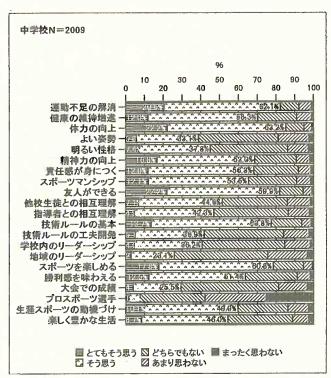



図2−5

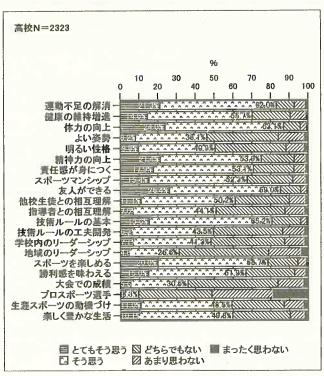



図2−6

シドニー五輪プレ大会　競技日程発表

シドニー五輪組織委員会（SOCOG）は9月7〜12日にシドニーのオリンピックパークで行われるプレ大会のハンドボール競技の日程を発表した。開催国チームに加えて、男子はスウェーデン、日本、クロアチア、エジプト、ベラルーシが、女子はハンガリー、ノルウェー、韓国、デンマークが出場する。

【男子】

9月8日（水）	予選	スウェーデン　対　日本
	予選	クロアチア　対　エジプト
9月9日（木）	予選	クロアチア　対　ベラルーシ
	予選	日本　対　オーストラリア
9月10日（金）	予選	エジプト　対　ベラルーシ
	予選	スウェーデン　対　オーストラリア
9月11日（土）	5・6位決定戦	
	準決勝	
9月12日（日）	3位決定戦	
	決勝	

【女子】

9月7日（火）	予選	ハンガリー　対　ノルウェー
	予選	オーストラリア　対　韓国
9月8日（水）	予選	ハンガリー　対　オーストラリア
	予選	ノルウェー　対　デンマーク
9月9日（木）	予選	ハンガリー　対　韓国
	予選	オーストラリア　対　デンマーク
9月10日（金）	予選	ハンガリー　対　デンマーク
	予選	ノルウェー　対　韓国
9月11日（土）	予選	ノルウェー　対　オーストラリア
		韓国　対　デンマーク
9月12日（日）	3位決定戦	
	決勝	

6月の期間中、他のレフェリーに加え、以下のIHFレフェリーが審判をする。Gallego／Lamas（スペイン）、Hansson／Olsson（スウェーデン）、Chung／Lim（韓国）

ハンドボールフォト・オブジイヤー　ハンガリーが獲得

昨年末IHFは1992、1996に続き第3回目の写真コンテストを呼びかけた。バーゼルの事務局へは4大陸の30ケ国以上から100以上の作品が寄せられ、R.Hahn専務理事が審査員の議長をつとめ、苦労の末選考した。

結果：1998年賞（10,000スイスフラン）

「ハンドボールフォト・オブジイヤー」はブダペストのフォトジャーナリスト、Sandor Kodruczの作品。スペインのJ.Soriano Patino氏の「気にするな」というスナップ作品が2位、3位はオーストリアのMaurice Shourt氏とスウェーデンのHakan Sjostrom氏。これらの作品はその独自性が評価された。

これら4名の作品は「ワールドハンドボールマガジン」99・2号に掲載される。

第4回スポーツ医療会議

ノルウェーハンドボール協会との協力により、IHFは第4回国際スポーツ医療とハンドボールの国際会議を、ノルウェーとデンマークの女子世界選手権の開催期間中、1999年12月2〜4日にかけてオスロで開催する。医師、理学療法士、トレーナーが招待される。詳細は下記の会議担当者まで連絡を。

Nimi
担当：Kjell Furulundまたは Sverre Maehlum
住所：Postbox3843 Ulleval Stadion,0805 Oslo,Norway
電話：+47－2223－0043 FAX：+47－2223－0048
E－mail：Nimi@nimi,no

日本協会事務局紹介

日頃、さまざまな業務で日本協会の仕事を支えてくれている日本協会事務局のメンバーをここにご紹介いたします。それぞれの方のお名前と職務分掌をご理解いただき、これからのお問い合わせ等ございましたらご活用ください。

（財）日本ハンドボール協会　事務局職務分掌

氏名（役職）	主たる職務分掌	その他の職務分掌
きい　よしお 喜井　美雄 （事務総局長）	事務局統括 対外関係部署との折衝 国際関連業務	総務・庶務・競技・審判 企画・広報・財務・会計 強化・日本リーグ 関連業務
ほんだ　まさき 本多　正樹 （事務局次長）	競技力向上事業（含む医科学研究事業） 指導者育成事業 企画・広報・機関誌発行事業	事務局統括補佐 チーム・選手登録関連業務
こまつ　まさたけ 小松　正武 （日本リーグ部長）	日本リーグ事業業務	事業予・実決算関連業務
ひよし　ひろこ 日吉　紘子	経理・出納業務	用具検定関連業務 物品販売に関わる業務
ワタナベ　なおみ 渡邉　直美	総務・庶務業務 選手・役員・審判登録業務 グランド・ファミリー登録	強化事業関連補佐 機関誌発行に関わる業務補佐
のしろまきこ 能城真喜子	国際関連業務	国際関連翻訳業務
なかじま　はるみ 中嶋　治美	日本リーグ関連業務補佐 （日本リーグ関連時のみ勤務）	

皆様の業務の円滑なる遂行に努めてまいりましたが、この度永年にわたり勤務の齊藤博事務局長が、きたる9月15日に定年を迎え円満退職することになります。一日も早く体制固めができますよう、皆様の温かいご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

前列左から
日吉紘子さん、中嶋治美さん、渡邉直美さん、能城真喜子さん
後列左から
本多正樹事務局次長、齊藤博事務局長、喜井美雄事務総局長、小松正武日本リーグ部長

平成11年7月常務理事会

日　時：7月10日
場　所：青山メトロ会館
出席者：市原専務理事、常務理事8名、理事2名、監事2名、事務局2名

会議に先立ち、全日本女子伊藤監督より、活動方針について報告があった。

【報告、了承事項】

1、ハンドボールフォーラム21について
　当日の進行について、確認と了承
　参加状況報告、当日の役割分担、などについて了承

2、指導委員会事業について
　国外研修中止報告
　平成11年度コーチ・レフェリーシンポジウムの開催を平成12年3月10日より12日に、東京代々木、オリンピック記念青少年センターで開催

3、日本リーグ関連事項
平成11年度第1回日本リーグ部会報告
①シドニーオリンピックアジア予選協賛金について
②フォーラム21参加依頼
③観戦入場者の動員施策について検討

4、IHF・AHFレフェリーコースについて
　'99ジャパンカップ・第5回ヒロシマ国際大会時に開催
　日本、韓国、イラン、台湾より8ペアが参加
　予算について報告

5、強化関連事項について
①第14回女子世界選手権、第12回女子ジュニア世界選手権の選手団と日程の報告
　全日本男子U－23は、'99ジャパンカップに来日したチェコとの親善試合ならびに8月実施の海外遠征選手団報告。
②ナショナルトレーニングシステム（NTS）実施要項（案）として、愛知県におけるシュミレーションの報告。日本代表選手への一貫強化システムとして、若年層の強化育成、指導者のレベルアップを図る目的で、8月29日実施。

6、その他
①日本協会グッズについて
　ネクタイ、ボタンの価格を承認
②運営役員登録について
　7月7日現在、24団体から納入済みの状況報告があり、引き続き事務局で請求促進依頼の報告
③'99ジャパンカップ・第5回ヒロシマ国際大会について
　役員参加について確認

【議題】

1、「がんばれハンドボール10万人会」の今後の推進について
　佐分本部長より、今後の対応について報告
　推進本部の組織について、実行委員会を組織して、委員会からの情報を日本協会を通して各都道府県、連盟に伝達する。実行委員の人選について、推進本部の下に各都道府県・連盟の委員長を置くこととし、早急に各都道府県に人選を依頼する。

2、シドニーオリンピックアジア予選大会組織委員会名簿について
一部修正のうえ、原案を承認

3、アジアビーチハンドボール大会について
①AHFの参加要請について、日程に無理があるため見送ることで承認。
②ワールドゲームス2001秋田について、IHFからの男女開催について受け入れることとし、今後開催に向け組織を作り選手選考、強化対策、支援体制等、次回審議することとした。

4、日本リーグ規律規定改定について
　日本リーグ規律規定について、見直しの提案がなされ、日本リーグで対応を検討し、日本協会と連動して解決することとした。

訃　報

（財）日本ハンドボール協会参事　眞田（さなだ）　元（げん）　氏におかれましては、去る8月17日（火）、脳内出血によりご逝去されました（享年50歳）。
　謹んでお悔み致し、ご冥福をお祈り申し上げます。

第50回 五大都市大会

決勝戦は男女とも大阪市vs名古屋市　大阪女子は初優勝!!

大阪市ハンドボール連盟　山中善之佑

平成11年7月9、10、11日の3日間に渡り、大阪市舞洲アリーナを会場に第50回五大都市体育大会（ハンドボールの部は34回）が行われた。男女の決勝戦戦況と結果は以下の通りである。

■男子

大阪池野の華麗なステップシュートで先取。引き続き池野、弟子丸のロングなどで得点を重ねるが、名古屋も佐藤のポストシュート、酒旬のロングで追い上げ、6－5と逆転するが、大阪川原崎の2点連取で前半は6－7、大阪リードで折り返す。後半に入っても緊迫した雰囲気で時間が経過して行くが、名古屋は内藤のポストシュート、海江田のサイドシュートで得点すれば、大阪はポストマンの東の7mを誘うプレーで追い上げる。名古屋・大阪ともフットワークのきいた組織的なディフェンスをしてよく守りあうがラスト5分から名古屋名取のミドルが決まり3連取し、ゲームを決めた。

■女子

初優勝を目前にした大阪チームには堅さがなく、リラックスした楽しい雰囲気で試合を進めた（選手たちは、トリプル、よくてダブルスコアーで負けるつもりで試合にのぞんでいました)。特にＧＫ井上益美の落ち着いたプレーは優勝戦の堅苦しさをなくし、楽しい試合を展開させ、見ている観覧者（他都市の役員）に感動を与え、ハンドボールとはこんなに楽しいボールゲームだったのかと言わしめました。

大阪市の大会運営者としては、大阪女子の初優勝以上にうれしい大会になりました。

【成績】

■男子

〈1回戦〉
名古屋市20―13　神戸市
京都市　23―16　横浜市

〈敗者戦〉
神戸市　21―20　横浜市

〈準決勝戦〉
大阪市　23―20　神戸市
名古屋市12―11　京都市

〈決勝戦〉
名古屋市15－12　大阪市

■女子

〈1回戦〉
名古屋市16―10　神戸市
横浜市　15―13　京都市

〈敗者戦〉
神戸市　16―10　京都市

〈準決勝戦〉
大阪市　14―13　神戸市
名古屋市17―17　横浜市

〈決勝戦〉
大阪市　15－7　名古屋市

●9月の行事予定

サザンクロス国際大会（シドニー五輪プレ大会）全日本男子参加
9月5日～13日／シドニー

男子Ｕ―23ドイツ遠征
8月26日～9月6日

男子Ｕ―19選考合宿
9月11日～12日（予定）

日本リーグ（右記）

常務理事会　9月4日（土）
東京体育館研修室

［日本リーグ］

◆9月11日（土）
小山市／小松市／三好町／鈴鹿市／西宮市／広島市／山鹿市

◆9月15日（水）
平塚市／塩山市／高岡市／多治見市／豊中市／広島市／佐賀市

◆9月18日（土）
浦和市／広島市／金沢市／京田辺市

◆9月19日（日）
知立市／名古屋市／本宮町／栃木市／高知市

◆9月23日（木）
盛岡市／岩井市／刈谷市／本宮町／高松市／名瀬市／徳山市

◆9月25日（土）
甲田町／浦和市／松橋町

◆9月26日（日）
東海市／豊田市／今治市／山梨市／氷見市／小松市／生駒市

HAND BALL CONTENTS SEP

柔らかな感触で、最適なバウンド！

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH1-ADJ
3,600円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四〇〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十一年八月二十六日印刷 平成十一年九月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一 電話 代表 三四八一—二三六一 振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む